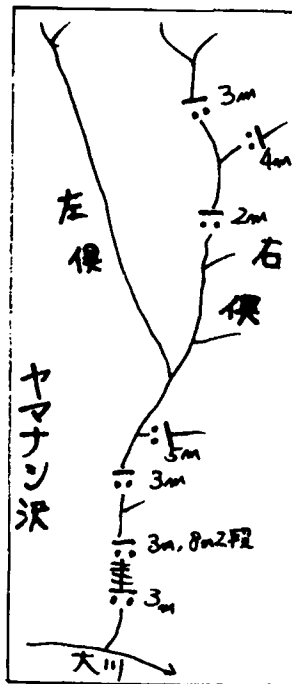


9時20分、二俣となる。左俣は伏流状となっている。  
右俣に入る。左俣は帰りに下降予定である。

2 mの滝を越えると、上部の二俣。我々は左に進み、  
最後はヤブをこいで稜線に出る。(記・... 郎)

[タイム] 出合(8:20)→左俣出合(9:20)→上部二俣(10:  
05)→稜線(11:00)



### ヤマナシ沢左俣 1992年7月25日

ヤマナシ沢右俣の遡行を終え、稜線で小休止する。そ  
のあとヤブをこいで左俣に下降するが、何もなまま右  
俣との出合へ。ちょっと力がぬけた感じのまま大川本流  
まで下って下降終了とする。

(記・... 郎)

[タイム] 下降開始(11:30)→右俣出合(12:00)→下降終了(12:30)

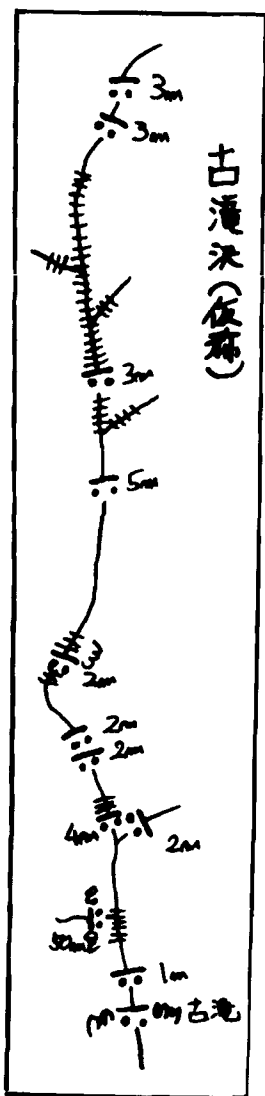
## 只見川中流域の沢

### 大鍋又沢支流古滝沢(仮称)上流部 1992年8月23日

Lp

林道終点近くから造林地の中の小沢ぞいに下り、古滝の上に出る。造林地の中  
は思ったよりヤブが深く、また沢に向けての小沢左岸の急斜面は途中からスラブ  
となってしまう、右岸側へザイルを使ってトラバースするなどの苦勞があり、沢  
に下るまで50分もかかってしまった。

古滝より上部には、小さなナメが断続する。大きな滝はかからず、小滝ばかり  
で、樹林帯の中をゆるやかに流れている。30分程遡ると、5 mの滝。古滝より上



部では最大の滝である。ミゾ状の流れとなっていて、楽に直登できる。

5m滝を越えてしばらく進むと、ナメが出てくる。このナメは、徐々に傾斜を加えながらずっと続く。最後の方は、滝といってもよいくらいである。

古滝から1時間程でナメは終わる。この先はもう細い流れとなり、ゆるやかにヤブの中に続いている。遡行終了10時15分。  
(記・)

[タイム] 林道終点(8:20)→古滝上部(9:10)→遡行終了(10:15)

### 滝沢川源流右俣右沢 1992年8月22日

峰越林道の新潟県側から貉ヶ森山頂をめざす。貉は、化かす能力を持った狸のこと。冬毛の狸という説もある。森は、東北地方によくある呼び名で、山を現わす。私の生まれた関東地方では、平坦な森も「ヤマ」とよぶ。つまり、山には必ず森林があり、森林イコール山であって、区別する必要がないからだと思われる。

9時10分に山頂着。ガスにつつまれ視界はゼロである。降り口が見つからず、コンパスで方向を決め、ヤブの中

に突っ込む。どうも目的の尾根でないような気がして、再び山頂に戻る。県境尾根を70m程南下した所で、「山786号」と書かれたコンクリート柱を発見。ここから東に張り出した尾根が、目的の尾根だ。踏跡もはっきりしていたが、次第にわからなくなる。地図上から、どこからでも南に下がれば目的の沢に降りると判断した。

下がるに従い、いくつもの水のながれた跡が集まり、やがて水が出てきた。15分程で大きな支流と合流する。このあと二俣まで連続した滝が出てきたが、目的とした滝沢川源流右俣右沢出合までの下降に使ったこの沢は滝沢川右俣左沢であり、会報「725」No 36にて遡行記録も掲載済みであるので、報告は省略する。